

麻布幼稚園だより 1月号



平成27年1月8日

港区立麻布幼稚園

園長 大島美知代

「豊かさ」とは？

園長 大島 美知代

新年あけましておめでとうございます。楽しい冬休みを過ごされたことと思います。今年も子どもたちの成長のため、力を尽くしてまいります。平成27年がよい年になるよう、一緒に力を合わせていきましょう。

「1年の計は元旦にあり」。平成27年を迎えた皆様は、「今年はこんな年にしたい」「こんなことをしたい」と思い、それに向けての計画を立てたのではないのでしょうか。

3学期は一番短い日数の学期です。3学期は今年度の締めくくりであり、次年度に新しい生活を迎える子どもたち一人一人に何が必要かを考え、一日一日を大切に過ごさせていきたいと思います。年長組はあと3か月で修了式、4月には小学校入学です。年中組、年少組も上の学年に進級します。新しい仲間や新しく年少組を迎えます。ご家庭でも将来の日本を担っていく子どもたちがどのように育っていったらよいか、保護者が手本となり、「人生の基礎を培う幼児期」を大切に過ごさせているのではないのでしょうか。

冬季休業日中に旅行に行きました。そこで食習慣について考えさせられました。私の宿泊先は、自分で料理を自由にとって食事するシステムの宿でした。当然冬季休業日中ですから子どもたちもたくさん宿泊していて、家族や親戚等で一緒にテーブルを囲んでいました。食堂で目についた光景は、

- ・たくさんの食物をとってきて、食べ残す。
- ・椅子を出したまま、食物を取りに行く。
- ・口に食べ物を入れたまま、話す。
- ・テーブルに肘をつき、横を向いて食事をする。
- ・箸が正しく持てず、ご飯をフォークで食べる。
- ・メンバーが揃わないうちに食べ始める。等です。

食事は毎日のことです。子どもは大人の食事の光景を毎日見えています。このような食事のマナーを続けていたら、子ども自身が成人した時や結婚する時になったらきっと大変なのではないかと私は心配になりました。日本では食物を捨てる量が多いと報道されています。様々な食材がすぐ手に入る豊かな日本ですが、だからからと言って許されることではありません。食物は植物や動物の命をいただき、それを育てる人の苦労がこもっています。子どもの食べ方や食べ残しを大人が見ているのに、論さないのはなぜでしょうか。「豊かさ」とは何なのでしょう。

もう一つ正月に見たTV番組の話をします。それは大阪の高等学校の吹奏学部の番組でした。全国大会を目指す吹奏楽部員の様々な葛藤が映し出されていました。その高校が大阪大会で勝ちました。部員たちは、次はいよいよ全国大会だと会場で大きな歓喜の声をあげました。練習がきつく、苦勞した部員たちにとっては当然の行動でした。しかし、学校に戻ってから吹奏楽部の指導者である先生は渋い顔をして部員を全員集めたのです。なぜだと思いませんか。

「お前たち、会場で大騒ぎをして。隣に誰がいるか、ちっとも感じておらん。お前ら、恥ずかしいと思わんか。」と先生の大阪弁が響いたのです。なぜ先生がそう言ったのか、その後のインタビューから分かりました。「自分は演奏のうまい子を育てようと思っていない。音楽を通して気遣いのできる心の豊かな子を育てたい。心の豊かさは音に出る。」と。

日本の将来を担っていく子どもたちに私たち大人は、どんな「豊かさ」を育てていけばいいのか、再度考えてみようと思いました。「豊かさ」とはどんなことでしょうか。